

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	さくら中原			
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～	2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	65名	(回答者数)	49名
○従業者評価実施期間	2026年1月1日		～	2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数)	25名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの発達段階に応じた男女の適切な距離感を大切に、活動スペースを分ける等の環境設定を行うことで、他者を尊重する意識や社会性の育成に取り組んでいます。	部屋割りや職員配置を工夫し、安全面に配慮しながら、異年齢交流や男女混合での活動も取り入れています。状況に応じた環境設定を行い、思いやりの心や協調性を育む支援を意識的に実施しています。	男女の違いや多様性への理解を深めるとともに、年齢や特性の違いを尊重し合えるような活動や声かけを強化していきます。引き続き、相手の立場を考えられる関わりを育む支援の充実を図ってまいります。
2	月に1回以上のイベントを実施し、日常の活動では得られない多様な体験の機会を提供しています。子どもたちが新しい経験を通して達成感や成長を実感できる点が強みです。	イベントの場所や内容については、季節性や児童の特性・発達段階を踏まえて毎回検討・決定しています。外出活動に限らず、身辺自立や生活スキルの向上につながる内容も意識的に取り入れ、体験と日常生活支援の両立を図っています。	これまでの実施内容を振り返りながら、児童の興味関心や発達課題をより反映させた企画づくりを進めています。あわせて、活動内容に応じた必要な備品や教材の整備を行い、体験活動の質を高めるとともに、学びや生活力の向上につながる内容の充実を図ってまいります。
3	施設の規模が比較的大きく、子どもたちが身体をのびのびと動かせる環境を確保している点が強みです。活動に応じた十分なスペースを活用できることにより、安心・安全な支援が可能となっています。	広い空間を有効活用するため、目的別に活動スペースを分け、運動活動や集団活動が安全に行えるよう環境設定を行っています。また、状況に応じて動線を確保し、事故防止に配慮した運営を意識しています。	活動内容に応じた備品や運動器具の整備を進めるとともに、安全面の点検を継続し、より効果的に空間を活用できる環境づくりを図ってまいります。身体活動だけでなく、静的活動とのバランスも考慮し、子ども一人ひとりに適した空間活用の充実を目指します。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設規模が大きく、職員数も多いため、支援内容や情報共有の徹底において調整が必要となる場合があります。	職員数が多いことにより、児童の状況や支援方針に関する情報伝達に時間差や認識の差が生じる可能性があることが要因と考えています。また、日々の業務の中で情報共有の機会が分散しやすい点も課題です。	定期的なケース会議の実施や記録様式の統一を行い、支援方針の明確化と共有の徹底を図ります。あわせて、情報共有ツールの活用や引継ぎ体制の強化により、職員間の連携向上に取り組んでまいります。
2	緊急時や事故発生時における初動対応および連絡体制について、より一層の迅速化と統一が必要と考えています。	職員数が多いことから、緊急時の判断基準や役割分担の認識に差が生じる可能性があります。また、状況に応じた柔軟な判断が求められる場面では、対応の優先順位の共有が課題となることがあります。	各種マニュアルの再確認と定期的な訓練を実施し、初動対応の手順および役割分担の明確化を図ります。あわせて、事例発生後の振り返りを行い、課題を共有することで再発防止および対応力の向上に取り組みます。迅速・的確な対応が組織として徹底される体制整備を進めてまいります。
3	職員の経験年数や専門分野が多様であることから、支援方法や関わり方に差が生じる可能性がある点。	多職種・多様な背景を持つ職員構成であることは強みである一方、支援観や判断基準の共有が不十分な場合、支援の一貫性に影響する可能性があります。また、日常業務に追われる中で、体系的な振り返りや学習機会の確保が十分でないことも要因と考えています。	定期的な内部研修および事例検討会を実施し、支援方針や対応方法の共有を徹底します。あわせて、外部研修への参加を推進し、専門性の向上を図ります。研修後の振り返りを行い、実践への反映状況を確認する仕組みづくりを進めてまいります。権利擁護および共感的理解を重視した支援姿勢の徹底を図り、子どもの最善の利益を基盤とした専門的支援の質向上に取り組めます。